６０・観の眼（2008.1）

睦月も下旬に突入、寒中お見舞い申し上げます。

サボリ癖が身についてしまい久しぶりの所感です。一年前にあと約五千五百日残っていると書きましたが、年が明けて五千百三十日に減ってしまいました。

子供の頃、初めて文字だけの本を買ってもらったのが「一休さん」で、今でも俳句をいくつか覚えています。その一つに「門松は冥土の旅の一里塚、嬉しくもあり嬉しくもなし」と言うのがありますが、人間誰でも通り過ぎなければならない道標です。

人生八十年まで元気で暮らしたいものだと思いますが、新聞やテレビ、昔の会社や同窓会の情報などを見るにつけ、元気そうだった人が意外に早く逝っているので、もう少し短いつもりで毎日を大事にしなければならないのかも、と思ったりします。

宮本武蔵が極めた武道書の中に「見の目」と「観の眼」の概念が書いてあるようですが、真剣勝負に臨んだ時に当然相手のどんな動きも見逃せない。

相手に少しでもスキがないか細心の注意を払う必要がある。そのためには目で相手の体勢をじっくりと捉える。これが「見」です。

武蔵がいうには上級者はもう一つの眼を持っているそうです。あたかも空中にビデオカメラを構えたかのように、相手と自分の位置関係を客観的に把握する。これが「観」です。

剣の道で高いレベルを目指すのであれば、この「観の眼」が欠かせないと言うことです。

自分の日常生活を時々「観の眼」で観察して……、でもまあ、余り真面目、深刻に考えないで、今年も気楽に愉しく過したいと思います。

６１・樽酒の香り（2008）

昨年の師走には忘年会が五回もあった。町会関係や町内の友人、昔の会社関係だが嬉しいような、時として煩わしいような・・でも自分の可能性を限定せず愉しみを拡げることをモットーとするならば、社会との接点が多いことを喜ぶべきかも知れない。

広辞苑で「忘年」を引いてみると、「その年の苦労を忘れること」「自分の老いを忘れるほど面白く思うこと」「年齢の違いを考えないこと」とあるが、私の場合「自分の老いを・・」に該当かもしれない。

ある忘年会の帰りに、家から下駄履きでいけるほどの昔馴染みの居酒屋についつい立ち寄ってしまった。会合ではビールと焼酎が多かったせいか、馴染みの処に行き、つい日本酒で締めたくなる新潟出身、酒好きのかなしい性（さが）かもしれない。

朝起きてみると顔に傷があり大分はれている。何処でどうなったのかさっぱり覚えていない。空白である。家内からは大目玉、言い訳の余地なし。どうやら帰り路のどこかで思いっきり道路と抱擁したらしい、いい年をしたベテランがはずかしい限りである。もちろん、この醜態は百パーセント自分の深酒のせいであり、日本酒には罪が無いのは言うまでもありません。その後の私は「観の眼」でみて、あまり忘年しないようまっすぐに帰宅するようにしています。

歳末と年始の２日までは自宅で日本酒を口にしなかった。たまたま切れていたので新規購入しないでビールと焼酎で我慢していたが、正月に日本酒ナシも何か物足りないなぁ～と内心思っていると、妻が高島屋に出向いた際に予告なしに樽酒を四合ビンに詰めて仕入れて来てくれた、何と優しい！　樽の香りに正月気分と日本人であることを改めてかみしめた。

睦月なのに師走の忘年会を思い出して反省しているわけであります。

６２・お金が欲しい社会？（2008.1）

約一年前から「はまっ子ふれあいスクール・アシスタントパートナー」として活躍？　しています。十二人居るパートナーの中で男性は私一人だけ。子ども達から「先生」とか「はまっ子先生」「おっちゃん」「じっちゃん」「そこの人」などと、その状況により呼ばれ方はいろいろですが嬉しいものです。こども達に嬉しさと感動を貰うのは、

- 名前を呼ばれた子が大きな声で返事をする時
- 「ありがとう」「ありがとうございます」を言われた時
- 「さようなら」を大きな声で言われた時

何だそんなことかと笑われるかもしれませんが、当たり前のようでもなかなか出来ないのが成長期のこども達です。

昨年七月の七夕週間に、子ども達の願いを短冊に書いてもらったところ、上位五は、

1. お友達がたくさんでき、楽しく元気で仲良くできますように。
2. お金持ちになりますように。
3. 一輪車、自転車が上手くなりますように。
4. サッカー選手になりたい。
5. スケート選手、ダンサーになりたい。好きな人と結婚できますように。

一～三年生が圧倒的に多いはまっ子スクールですが、金持ちになりたいと言う願いが多いのにビックリ、好きな人との結婚まで考えているとは二度ビックリ、まだ幼いこども達も大人の世界を茶の間で垣間見ているのでしょう

か。

２００８年、新成人の願望アンケートの上位二位は、

1．　お金が欲しい

2．　きれいになりたい（かっこよくなりたい）

というわけで、やはり現実的意見が圧倒しているようです、もしかして新成人に限らず格差社会に生きる現役バリバリのベテラン社会人の願望も同じかもしれませんね。つまり最近の日本は、「国民総きびし～、金が欲しい！」社会になったのだろうか。

はまっ子スクールについて少し解説します。

子ども達が年の違う友達と遊ぶことは非常に大切です。年令の違う友達と居ることにより、遊び方の違いや仲間との関わり合い方を体験し成長するわけです。

でも近年は少子化や核家族化により異年令の友達と遊ぶ機会が減っています。

横浜市では放課後学校設備を利用して、学年の違う子ども達が遊びを通して交流することにより、児童の社会性や自主性、創造性を養うことを目的に「はまっ子ふれあいスクール」を運営しています。また最近は保護者が働いている家庭も多く、子どもが家に帰っても誰も居ないこともあり、保護者負担は無料なので働くお母さんの子育ての点でもいい制度だと思います。私の町内にある小学校のはまっ子では、一年生～六年生で約二百四十人の登録があります。

６３・雀との友好は・・？（2008.4）

私は長い間サラリーマンをやり、その仕事を通して感じたことがあります。それは、老若男女を問わず、国が違っても、文化や言葉が違っても人の素直さや誠意は通じると言うことです。いろんな体験から一つの確信に似たものを持っていたので、いろんな厳しいミッション遂行のために、このことを必ず貫きました。結果として余り裏切られたことはありませんでした。

二月上旬のある日、窓の外を眺めていたら雀が五、六羽木の枝に止まってきょろきょろしています。人間ではないが、この雀にも誠意は通じるのだろうかと真面目に考え、雀の性格を知りたくなりネットサーフィンし、一つの写真に出会いました。やれば可能なのかもしれない！　野生の雀と友好的になることは夢ではないかもしれない！　私はすぐに実行に取り掛かることにしました。

この写真の人は一日数回、食事をさせるのが日課らしいが、雀が手のひらに着地するまでには半年程かかったそうです。又、その後二年間続けているが手のひらに乗る雀はその一羽だけで、他の雀がそこまで慣れることはないとのこと。う～ん……なぜだろう？　出来たら雀に聞いてみたいものです。

雀は警戒心が強いらしいが、一羽でもいいから信頼し合い、友好関係を結びたいものだ……今年の目標、チャレンジの一つが決まりました。

でも、一年では達成できないかもしれない。

・一週間目

古米を朝夕撒いて家の中から窓越しに観察をはじめ１週間。一枝一枝警戒しながら降りてきて一番下の枝で暫く様子見、なかなか地面に降りてこない。その内、降りてきて米をつまむが常にきょろきょろ、落ち着きがない。レースのカーテンをそっと開けると一斉に飛び去ってしまった。

まだ１週間、無理もない、まぁショウガナイか……と納得。

・二週間目

古米を撒いてレースカーテン越しに見ていると、三メートルの近くに犬がいても枝から下りて来る。カーテンを開けたままにしても、身体を動かさないで見ていると降りてきてつまむようになった。でも、やっぱり落ち着きがない。もっと落ち着いてゆったりと食事しろ！　と言いたくなった。試しに古米を撒いたところから四メートル離れたベンチに座りじっと待つが枝から降りてこない。四十分経ち冷えてきた。二月の夕方はまだ寒い、これ以上は無理。何か作戦を考えねばならない。

・三週間目

四メートル離れたベンチにかかしを置く作戦を実施、竹で骨組みを作り赤い雨具を着せ帽子をかぶせた。遠くから見ると誰かが座っているように見えるが、はたして雀はどう見るだろう？　以前、空き巣狙いに入られパソコンなどをごっそりやられたが、防犯にもなるかもしれない。

窓越しに観察を開始、十五羽ほどが枝に集まり静かに見守っているが下に降りて来ない。その内に枝の上でうるさいほどピーチク、パーチク賑やかにさえずり始めたが一体どういう意味だろう。多分雀の言葉があるに違いないが、大勢で何か会議を始めたのだと思う。

「人間がいるから注意しろ！」「ちっとも動かないが大丈夫じゃないか？」「いや何か罠に違いない」「悪人が多いから注意した方がいいぞ！」「慌てないでじっくり様子を見ようじゃないか」……他にもいろんな意見が続出しているようだ。どうやら雀の世界は間違いなく性善説ではなく性悪説にちがいない。

二日間降りて来なかったが、三日目からは降りて来だした。雀にも観察力と判断力があるとみえる。

・四週間目

どうやら雀はかかしに慣れたようだ。かかし作戦の第二ステップスタート。かかしを壊し、かかしの代わりに同じ場所に座ってじっと待つこと数日間、枝の上で会議をしては飛び去ってしまう。諦めて家に入り窓越しに見ているとあっと言う間に降りてきて古米をつまみ始める。古米だが魚沼コシヒカリだ、美味そうに食っている姿はかわいいが少し憎たらしくなってきた。

かかし（案山子）と人間の区別がつくのだろうか？

・あれから二ヶ月

作戦を開始してから二ヶ月、ほぼ毎日古米を撒いているので朝晩雀達が集まり木の枝で待つようになったが、目標達成には今だ大きな進展がない。べ

ンチに座っていると降りて来ない。ベンチを立ち十メートルほど離れるとすぐに降りてくる……幾らこちらに誠意があっても通じず、信頼されないと言うことは実に寂しいものだ。妻は無理だろうと笑っている、諦めの境地になったりするが写真の人は半年掛かったのだから焦らずもう少し我慢強く続けようと思う。果してその日は来るのだろうかと自信を失いかけるこの頃だ。

６４・雪の結晶（2008.4）

Ｎｏ・６２で書いた「はまっ子ふれあいスクール」に行くようになってから、長いこと遠ざかっていた子どもの世界にどっぷりになった。話をすれば心を開いてくれる子ども、少し反抗的で話だけでは打ち解けないが、一緒に野球やサッカーを本気になってやると心を開いてくれる子ども、いろいろである。そんな訳で子どもとの遊びにいろいろチャレンジした。輪投げ、紙芝居を観る、ぬりえ、おりがみ、お手玉、あやとり、挟み将棋、本将棋、囲碁、テニスラケットとボールを使う野球、サッカー、ドッジボール、バスケットボール、フラフープ、鬼ごっこ、かくれんぼ、ビーズ細工……娘が小さかった頃、現役バリバリだったのでこれほど遊んでやった覚えがないので、今頃懺悔だ。

二月の雪がちらついた日にふと思い雪の結晶についてインターネットで検索すると、この歳になって改めて「そうなんだ・・」と思い知った。それは、

・雪の結晶は基本的に六角形
・結晶の種類は二千以上もある！

１９３１年、アメリカのベントレーという人が、生涯をかけて撮影した顕微鏡写真から二千三百種の結晶を収めた写真集を出版したそうである。日本でもベントレーの写真集を手にして深い感銘を受けた中谷宇吉郎（当時北海道大学理学部物理学科教授）が１９３２年に雪の研究を開始し、五年間にわたる観測で二千二百枚の写真を撮り、雪結晶の一般分類を試みたとのことです。

こんなに種類があったのか！　大人でも知っている人はきっと少ないに違いない。このことをこども達に伝えたくなり、雪の結晶の切り絵を作り教室に持っていくことを思い立ち、妻に笑われながら生まれて初めてのチャレンジ、なぜか作っている内に楽しくなってきた。Ａ１用紙の作品を教室の壁に貼ると大勢の子ども達が「きれい！」と言ってくれ、私は側で得意になって「二千種類以上もあるんだよ！」と説明員になり切っていました。